



女性の活躍推進に必要な わたしの かかりつけ医

日本橋アレイラクリニック 院長
放射線画像診断・予防医療
岸本 佳子



<岸本 佳子> プロフィール
広島県尾道市出身
平成4年山口大学医学部卒業
放射線科医として画像診断やIVR診療に携わり、学位取得後スウェーデンやアメリカに留学。アンチエイジングや機能性医学を学び専門医を取得。2018年7月日本橋アレイラクリニック開業。
日本医学放射線学会診断専門医、日本IVR学会専門医、A4M専門医



日本橋アレイラクリニック
http://arayla.jp/
03-6262-6312
〒103-0023
東京都中央区日本橋本町1丁目4-9
ミヤギ日本橋ビル 3F

天然ホルモン補充療法や各種点滴療法を中心にゆったりと検査や治療が受けられる、完全予約制のプライベートクリニックです。

放射線科医から予防医療へ

予防医療に特化したオーダーメイドの医療を提供するクリニックが日本橋にオープンしました。院長の岸本佳子先生は放射線科を専門として日本で勤務の後、博士研究員として北欧やアメリカに留学。その時に出会ったのが「アンチエイジング医療・機能性医療」でした。日本でもまだアンチエイジングという言葉が知られていない時代に米国アンチエイジング医学会(A4M)の専門医を取得。帰国後にこの分野での外来を7年行いその効果を見る度に予防にまさる治療はない! と確信は深まったといえます。予防医療について伺いました。

日本は保険診療が主ですから予防医療専門の自由診療クリニックは数少ないと思います。私は放射線科医として画像診断を主に携わってきました。画像診断は、レントゲンや超音波、CT、MRIなどの画像を診て、異常所見を見つけて診断をし、この患者さんに一体何が起きているのかを考える仕事です。最近では装置も進化しており、特に婦人科領域の画像を中心に読影・研究をしてきました。MRIでは被爆や痛みを伴うことなく、比較的小さな癌も捉え

ることができるようになりました。しかし、病気がみつかったり観察となったり、一旦治療が終わった場合に、その後は半年・1年後に再検査にきてください、といわれます。再検査までなんと不安を抱えながらみなさん過ごされているようです。そんな中で再検査は病気を待っているようで嫌ですよね。最近では慢性疾患が多いですから、日々の生活や行動を変えないと原因は取り除かれません。しかしそれを相談する先がありません。そこで、健康を維持するお手伝いができないか、そう考えていました。病気になるって苦しんでいる人をたくさん診てきましたので、医者として病気になるようにしてあげることができないか、MRIを検査ではなく健診で利用することはできないか、くすりや症状を抑えるけれど根本解決にならない医療は嫌だな、と思い、それを実践したくて開業しました。病気を治すのはもちろん大

ています。相当細かい項目まで検査をしますので、全部で70〜80程度の項目になります。腸内環境の検査や、体内有害重金属とミネラルの検証に必要なクレイション尿検査などを行うこともあります。

こういった検査で、自分の身体の状態をまず知っていただきましょう。そして、その方のお悩みとどうなりたいのかをうかがって、それに合うセラピーやサプリメントをご紹介します。たとえば、疲れがとれない理由の一つにはストレスがあります。眠れない人は疲れがどんどん溜まってきて、悪循環になっていきますから睡眠のホルモンが出るメラトニンというサプリを服用していただきます。身体が元気になるストレスを抱え込まないようにもなります。私も

などが有効です。体内に滞積されている水銀等の有害重金属濃度を調べてからクレイション点滴をします。水銀などの有害重金属は、これから生まれる子どももの自閉症、認知症、がん・動脈硬化や糖尿病など様々な病気にかかわるといわれています。それらを取り除くことで体調がよくなる方もいらっしゃいます。

予防は能動的に

来院してくださる患者さんの年齢は本当に幅広く、80代の方もいらっしゃると思います。また、子どもに迷惑はかけず100歳まで元気に長生きしたい、といって来院される40代のシングルマザーの方も通われています。これから不妊治療を始めるといふ30代の女性が、ポロポロの身体を元気にしたい、と来院されることもありますし、20代の方でもデトックスに、とクレイション点滴にいらっしゃる方もいます。予防は能動的に患者さんご自身でやらな

いとけないので、なぜ自分にこれが必要か理解をした上でないと継続しません。予防にはまずは知識をきちんと持っていたくのが大事です。「病気を治す」といった従来の枠には当てはまらない、患者さんの相談にのり、「健康を作る」医者でありたいと思っています。

自分の身体を知る

「検査をしても異常がなく、原因がわからないんだけど疲れが取れない」「眠れない」などが最も多い相談です。原因がわからない場合はまずは総合血液検査をお勧めし

「検査をしても異常がなく、原因がわからないんだけど疲れが取れない」「眠れない」などが最も多い相談です。原因がわからない場合はまずは総合血液検査をお勧めし

自分の健康は自分で決める。遺伝よりもライフスタイルが長生きに影響するという北米からの報告があります。その差は倍以上です。ライフスタイルとは、食事や運動、たばこ、お酒、そして受診行動などを含みます。「予防」に積極的に取り組むか、自分の身体を知って特性から対策をとっているか、は、ご先祖様から引き継いだ要素の倍以上、健康で長生きできるかに影響するのです。健康は日々の行動が決めている、と意識しながら過ごしてみてくださいね。

北 奈央子
聖路加国際大学大学院博士後期過程在学・ヘルスリテラシーの研究に従事、女性医療ネットワーク (<http://cnet.gr.jp/>) 広報、女性のためのヘルスケアサイト (<https://w-wellness.jp/>) 運営

ヘルスリテラシー
北 奈央子のエッセイ